令和５年度学校評価計画書（中間報告）

学校名（宮内小学校）

評価計画					自己評価					学校運営協議会 委員評価コメント	改善方策
中期経営目標 （めざす児童生徒像）	短期経営目標 （めざす児童生徒像）	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標値	中間 8月	最終 2月	達成度	評価	結果と課題の分析		
全ての児童に個別最適な学びを日常的に提供する （自分の学びを作り出し，力をつける子）	自校の教育活動の目標と指導内容と評価を一体化させる	・PBS の考え方，個別最適な学びの実践に向けて計画的に研修を進める。 ・自由進度学習を実施する。 ・特別支援教育の考え方を学級経営に生かす。	・全児童が自由進度学習を体験する。 【校区共通項目】 ・授業では，課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組んでいると捉える児童生徒の割合（全国児童生徒質問紙） 【市共通項目】 ・学びが楽しいと捉える児童の割合（アンケート）	100% 80% 95%	93% 87% 88%		93% 100% 93%	B A B	・PBS の考え方や個別最適な学びの実践について共通理解し，各学年の実態や発達段階に応じて自由進度学習を進めた。児童の実態に合わせて，学ぶ方法を選択・決定できる教材準備や学習環境整備について取り組んだが，PBS の考え方を取り入れる意識に差がある。 ・自分で考えて自分のペースで学習を進めることができたと感じている児童が 87%という結果から，児童に選択・決定できる場を日常的に提供する取組の成果だと考える。	・PBS の考え方や個別最適な学びの実践の評価は基礎学力達成状況の観点からも評価する必要がある。例えば，国算の学力調査項目等の比較評価である。個別最適な学びの満足度調査では不十分である。 ・PBS の取組がすばらしい。自己肯定感や自己有用感が高い，生き生きとした子ども達が育っていくのが目に浮かぶ。 ・個別最適な学びの実践は，一人一人の児童をしっかり理解し，それぞれに合った教材や環境の準備等，大変労力のいることと思う。達成度が A・B に到達しているのは先生方の努力のたまものだと思う。	・PBS を授業で取り入れるための意図的な働きかけの実践交流をする中で，授業の中で PBS を実践していく。 ・めざすゴールを児童と共有し，友達と学び合う楽しさや新たな課題に挑戦しようとう気持ちをもたせられるような授業づくりを行っていく。
つながり支援プロジェクトを日常化する （自分らしさを伸ばし合える子）	・PBS の考え方を具体的な場面でどう実践するか共有する。	・PBS の日常的な実践 ・全校で行う「良いところ見つけ」で全員を紹介する	・自分にはよいところがあると捉える児童の割合。（アンケート） 【校区共通項目】 ・先生や友達にいつでも相談できると捉える児童の割合。（アンケート）	90% 90%	87% 85%		97% 94%	B B	・縦割り班掃除や学校行事等を通して，「良いところ見つけ」を全校で取り組んだ。お昼の放送で紹介やカードの学年掲示などから，「自分にはよいところがある」と捉えている児童が多くいる。一方，「自分にはよいところがない」と捉える児童のうち，「先生や友達に相談できない」児童の割合は 21%であった。	・心と態度の育成，自分らしさの伸長とは，①自分自身に関すること，②他の人との関わりに関すること，③自然や崇高なものに関することなど，多岐に及ぶ心と態度の育成に関連する。そのため，心の教育，道徳の時間の意識調査も必要でないか。 ・取組はすばらしいし，目標値を超える達成度に成果がしっかり出ていると思う。「自分にはよいところがない」「相談できない」と捉えている児童をしっかりフォローしていただきたい。	・全ての教育活動で PBS を実践していくと同時に，自分のよさを感じにくく，困った時に相談しにくい児童へアプローチしていく。
職員の充実感を高め，時間外勤務時間を下げる。	◎分掌の見なおしと業務の平準化を進める。	・企画委員会で業務改善の議題を挙げ，各部でも検討を進める。	・業務改善が進んでいると捉える職員の割合（アンケート）	100%	67%		67%	C	・業務改善に向けて，企画委員会で専門部ごとに分掌内の担当や行事の精選について出た意見を検討し見直すこと，授業時数を管理し成績処理の時期に時間を確保できるよう計画すること，校務	・業務改善が進んでいない原因として職務の充実感もあるのではないか。研修意欲とスキルの向上には，教職員の協力，ワンチーム j 意識，校内研修の充実が欠かせない。勤務時間を前提に信頼される学校評価の視	・業績評価の目標達成に向けて意欲向上を図るよう適宜声かけをお互いに行うことと，新しいシステムの構築を教

		・全職員が業績評価の重点目標の一つに位置付け対話を重ねる。	・1 月末時点で月時間外勤務 45 時間以内の月が9か月以上の職員割合８５%以上	100%	75%		75%	C	支援システムの掲示板機能を活用して会議時間を短縮することなどに取り組んだ。しかし，業務改善が進んでいない原因として，教職員の意識の低さやこれまでの慣習を変えられない考え方等があげられる。	点も必要かと思われる。 ・職員個々の意識の低さや慣習になっている原因はあると思うが，今すすめている個別最適な学び，実態に合わせて洗濯できる方法や教材となると，事前の準備がこれまで以上に時間を要するのではないか。人員の補充や分掌などが進むとよい。	職員に呼びかけ，アイデアを出し合って業務や行事の効率化が図れる内容に改善してく。

○　短期経営目標のうち、本年度の重点目標については、◎印で示し、◎印は全体を通して３項目以内とする。

【自己評価】

「達成度」＝　報告期の達成値／目標値

「評価」目標値に達する評価の度合い

（A・・１００%、B・・８０%、C・・６０%以上、D・・６０%未満）